

三十六回展受賞者の声

絵画の部



文部科学大臣賞

土屋政夫
「水底のオブジェ」
(油 彩)

この度は大変栄誉ある文部科学大臣賞を頂戴し、光栄に思います。
受賞の一報に接した時、私に小さな驚きが生じました。それは新日美展の風土と、私の作品の作風とでは相容れないもので、この賞の受賞はあり得ないと思ひ込んでいたが為です。

私は制作にあたり、二つのベクトルあるいはスタンスを持つようになっています。昔の事です、私はポリエステル樹脂で訳のわからぬ立体作品を作っていました。一時、コンセンブチアルアートにもめり込んだ事もあります。

これらの立場は、マルセル・デュシャンが便器を逆さにして「泉」と題した作品を良しとする立場です。一方、自分が自然と向き合いつながりながら、自然と一体になりたくて願うべく、取ること、自然と一体になりたくて願うべく、クトル。これは般若心経を写経する作業と同質と考えます。観念の世界とマテリアル製造技術の対比です。ですが、こうしていても、色心不二の言葉の様に何も二つに分ける必要はないのではと迷つてしまいます。これからも迷いつつ、小さな風を起しながらいながらオンラインの道を目指します。

いずれにしても、新日美展という発表の場を与えて下さったことに感謝します。一九七八年創設以降、中尾会長はじめ多くの諸先輩方がこの会を支えて下さいます。そのご恩に報いるためにも、今後は微力ではありますが会の発展の為に尽力させて頂きたいと願っています。
全国の会員の皆様に感謝します。



東京都知事賞

井上貴絵
「雪降る音」
(日本画)

先ずは、私の作品にこのような上位の賞を与えて下さった、選考に携わる諸先生方に、厚く御礼申し上げます。私は昨年、初応募にて佳作賞を頂き、二回目の新日美展で東京都知事賞が頂けることは、嬉しいのは勿論のことそれよりも先に驚きました。新入りに対しても作品を高く評価して下さい、貴協会の特性が宣伝されれば、若手美術家の入会希望が増えることと思われま。貴協会が益々活力に満ち発展される事をお祈り申し上げます。
話は変わりますが、私の今作品に対する思いについて書かせていただきます。講評の先生からお褒め頂いた題名「雪降る音」、これは、北国雪国生まれの人々の郷愁をつく功を奏したように思われました。長野人の私にとつて、雪が降る音とは「シヤカシヤカシヤカ・・・」。例えば、かき氷機の下受け皿に削られた氷粒が落ちて当るような感じと表現いたします。

真冬、クリスマスや正月の季節になると、深夜や明け方早朝の生活音が少ない時刻に、このシヤカシヤカシヤカという音がするようない配を感じた翌朝、一面は銀世界になっていました。
新雪を踏むとキュッキュツと砂のように鳴き、二月下旬になれば春が近い陽射しに溶けた雪が屋根根から落ち、ドッスン、パツタンとうるさい。このように雪は賑やかなものなのです。
作画制作が佳境に入るころは真夏で、長野は夏も涼しいイメージに思われがちですが、人が住んでいる所は暑い！連日三十五度C前後の猛暑で、他の関東地域の都市と同じです。夏休みに遊びに来ていた姪から「早く描き上げないと雪が溶けちゃうよ！」とひやかされました。

このように描きたいものを好きに描いている私ですが、このスタイルは変えずともまぐれで賞を取った作家などと後で言われぬように



東京都議会議長賞

大石 亨
「黒い流れ」
(油彩)

衿を正して画業に励みたいと思います。皆さんよろしくお願ひします。

自信と勇気を頂く

感激です。私のような抽象絵画にこのような大賞を頂けるなど思ってもいませんでした。ただにうれしく思いました。
当会では抽象絵画を描く者がいたって少なく、それだけにややもすれば負目を感じがちでした。ところが思はず賞を頂くことにより、これからは負目どころか、自信を持つて積極的に抽象絵画に取り込む勇気がわいてきました。今後、更に推し進めて当会に新風をもたらすことができれば、まさに、これ幸いというものです。

勿論絵画は具象、抽象、どんな絵を描こうと自由です。なにものにもとらわれず、おのれの信ずるところに従つて、思うがままに創作するのが絵画です。
そのためには、先ず自分に自信を持つこととです。しかし他に迎合することなく自分の道を突き進むという事はなかなか難しい。時には他から中傷もあるでしょう。また自ら孤独に陥り、果たしてこんなことではないのか、どこか道を誤つていないか・・・スランプの症状となることもあるでしょう。だが、そんなことに負けてはダメ。勇気と希望を持つて自分の道を進まなければならぬと思ひます。

私とて色々悩みを抱えています。今更引き返すことはできません。もつとも最近引は年の功か、そんなことはすっかり忘れて楽しく描くよう心がけています。
ともあれ、受賞できて嬉しい。勇気がわいてきました。有難うございました。



新日美大賞

勝山絹枝
「ハピネス1」
(油彩)

この度は、身に余る賞を戴き、驚きと嬉しさでいっぱいです。私事ではございますが、九月十四日、主人が県立癌センターにて膀胱癌の全摘手術を受け(七年前もすい臓がんの手術を受けました)、私も体調を崩し今回は出品する状態ではありませんでした。今まで大きい額は必ず主人が作ってくれ、私の受賞を誰よりも喜んでくれる主人を思い、強い決意で出品致しました。
そして囚らずもこんな大きな賞を頂きとても喜んでくれている様子なので、やっぱり大変な中、先生はじめ皆様のご協力で出品したことが大変良かったと痛感しております。これからは主人と二人三脚で絵を描いていきたいと思ひますので宜しくお願ひ致します。ちなみに私のテーマはいつも「ハピネス」です。

今、世界も日本も混沌としておりますが、でも必ず大人達も子供達も世界の皆が仲良く思いやりの心、愛の心をもって、地球市民として、必ず素晴らしい世になる事を信じて描いていきます。これからのテーマで精進したいと思ひます。この度は本当にありがとうございます。



新人賞

浜田洋子
「月の香り」
(日本画・ミキストメディア)

長年勤めていた会社を円満退職して、気心の知れた友人数人と会社を創りました。主に環境調査のお仕事です。小じんまりした会社ですが、運よく良いお客様に恵まれ